

# つなぎを意識した9年間の英語教育

## ～施設一体型小中一貫教育校の特色を生かして～

沖縄県名護市立小中一貫教育校 りくふう 緑風学園 (久志小学校・久志中学校) あらかき 新垣みゆき

### はじめに

緑風学園は、久志小学校、久志中学校が統合し、昨年4月に沖縄県初となる施設一体型小中一貫教育校として開校した。

開校に向けては小中一貫教育校市民懇話会の提言を受け、特色ある教育課程として9年間の系統的・継続的な学びを通した「基礎・基本の定着」「ふるさと学習」「英語教育」の3つの柱を打ち出した。

英語教育については、教育課程特例校制度の指定を受け、小学1年生から9年間の系統性を重視した英語教育の展開を目指し、開校当初より全職員協力のもと、学習環境の充実（指導体制の充実、環境整備の充実、指導の充実、地域・保護者の理解）に取り組んでいる。

本校は施設一体型の小中一貫教育校の利点を生かし、さまざまな取り組みを実践している。まだスタートしたばかりで、試行錯誤の段階ではあるが、現在実践している取り組みを紹介したい。

### 1 指導体制の充実（多様な指導体制）

本校では英語指導員のALT（外国人指導助手）とJTE（日本人英語指導助手）が常勤として配置されている。また中学校英語教員も加わり、3名で小学校の英語教育に従事できる多様な指導体制をとっている。

昨年度から必修となった小学5年生からの「外国語活動」に不安を感じる教師が多い中、小学1年生からの英語学習ともなると、全職員が初めての経験となり不安はかなり大きい。そこで本校では、少しでも苦手意識を克服し英語の指導に慣れてもらうために、1学期は1年生から4年生の英語の授業を元小学校英語活動アドバイザーであるJTEの主導で、担任やALTとのチーム・ティーチングを行った。そのおかげで、学級担任の指導力が向上し、2

学期以降は学級担任主導の授業が展開されている。また教材教具の研究や準備、授業計画などにおいても、JTEが主となり作成している。またこれまでの取り組みを通して、指導力のみならず、教師自身の英語教育に対する意識が向上し、日頃から積極的に英語を使おうとする場面が多く見られるようになった。

5、6年生の英語活動については中学校英語学習への円滑な接続を意識し、中学校英語教員が中心となり、ALT、学級担任の3人で指導にあたっている。特に授業の導入部分では中学校の授業同様に「ショート・チャット」（英語でのクイズ・タイム）を実施し、「聞くこと」「話すこと」を重視した活動を取り入れ習慣化している。さらに7年生（中学1年生）の英語の授業においては、中学校英語教員、ALT、JTEの3人体制で指導にあたり、中学校英語のつまづきを解消するための支援を行っている。

### 2 環境整備の充実（英語に親しむ環境）

#### (1) 表示物の充実

自然に英語の文字に触れ、表示物を目にすることによって英語の単語が出てくるような環境作りを目指し、英語部会（中学校英語教員、小学校英語担当、JTE、ALT）を中心に校内英語表示物の充実に努めている。各教室には英語コーナーを設け、既習単語や表現などを掲示し、英語を口にすることが特別なことにならないような環境づくりがなされている。日頃の学校生活においてコミュニケーションのきっかけになるような環境づくりを大切にしたいと考えている。

#### (2) English Day

毎週木曜日は「English Day」と位置づけ、登校のあいさつ“Good morning.”から授業の始まりと終わりのあいさつ“Let's start (finish) English class.”、ランチタイムの始まりと終わりのあいさつなど、下校までのあいさつを英



中学校美術教員協力による壁面表示。左は森の生き物、右は海の生き物が英語で表示されている

語で行う取り組みを実践している。朝の放送、お昼の放送も英語で行われており、8, 9年生（中学2, 3年生）の報道委員を中心に英語によるリクエスト曲の紹介や絵本の読み聞かせなど、小中一貫校ならではの取り組みを実践している。

### 3 指導の充実（英語活動と部分的イマージョン教育を通して）

#### （1）英語活動

本校は英語教育の目標：前期（1年生～4年生）【英語に慣れ親しむ】、中期（5年生～7年生）【英語を身につける】、後期（8, 9年生）【英語を活用する】を掲げている。これらの達成に向けて、1年生～4年生は英語活動と部分的イマージョン教育を併せて年間30時間の英語学習を実施している。英語活動については、1年生から4年生は歌やゲームを中心とした授業、5, 6年生は歌やゲーム、言語活動に加え、中学校英語学習へのなめらかな接続をねらいとして文字指導が導入されている。文字指導については、生徒の負担にならないよう、1, 2年生で基本的なフォニックスの学習を、3, 4年生で国語科と連携したローマ字の指導、5, 6年生でアルファベットと音を関連づけた指導を位置づけ、大文字と小文字が書けることを目標としている。



学級担任、JTE、ALTの3名による2年生の英語活動

#### （2）部分的イマージョン教育

英語活動を補いながら、英語の機会を多く持たせたいという考えから、英語活動の他に体育・音楽・図画工作・生活などの技能教科で部分的イマージョン教育を実施している。英語活動と並行して進行することに不安はあったが、1年次は簡単な英語での指示、それぞれの教科で使う単語やフレーズの指導程度とし、児童の負担にならないよう考慮した。そして何より各教科のねらいから逸脱しないよう努めた。

実践を通して、当初計画していた教科ではうまくいかないこと、国語や算数で実践可能な単元があること、担当教員との話し合いの時間が十分にとれないことなどさまざまな課題が挙がった。今後はそれらの課題を十分検討しながら、2年次へとつなげていきたい。

## 4 今後の取り組みとして

国際的なコミュニケーション・ツールとしての英語の重要性が高まり、本校の英語教育についても生徒や保護者からの理解と期待が高いことが、実施したアンケートからわかった。「実際に外国の人と交流したい」「外国へ行きたい」などの生徒からの要望も多く、今後は市内の大学に在籍する外国人留学生や県内のアメリカン・スクールとの交流などを検討している。また、ICTを活用した授業の研究や沖縄高専との連携も引き続き実施したいと考えている。

暗中模索の中で始まった本校の取り組みは、1年次を終えようとしている。本年度は英語教育に向けた環境作りや保護者、職員の理解、子どもたちの興味関心の向上など収穫の多い1年だったといえる。今後は指導案の修正を加えながら、より充実した指導法や指導体制の構築に向けて取り組んでいきたい。